

## 第6学年 国語科学習指導案

1組 男子17名 女子17名 計34名

指導者 佐藤 崇宣

2組 男子16名 女子17名 計33名

指導者 千葉 由美子

**1 単元名** 「読みズバ！」 ～読書会で作品から感じた思いを交流しよう～

**2 教材名**

中核教材 「海の命」(光村図書 6年下)

補助教材 「100万回生きた猫」等 命をテーマとした図書資料

**3 研究との関わり**

本単元を通して育てたい力

〈追究力〉

○ 命をテーマとした本を選び、読書会の「交流の柱」について、それぞれの考えの相違点・共通点を明らかにしながら、自分の考えを広げたり深めたりしようとする力を育てる。

〈感想力〉

○ 読書会の「交流の柱」について、自分の考えをもち、読書会を通して、自分の考えをまとめる力を育てる。

〈説明力〉

○ 読書会の「交流の柱」について、根拠を基に自分の考えを話す力を育てる。

**4 言語活動**

命をテーマとした本を読み、読書会を通して、読書会「交流の柱」について交流し、自分の考えを広げたり深めたりすること。

**5 単元の指導目標**

○ 命をテーマに書かれた本を読み、読書会を通して、自分の考えについて交流しようとする。  
(関心・意欲・態度)

◎ 命をテーマに書かれた本を読み、読書会の「交流の柱」について自分の考えを広げたり深めたりすることができる。  
(読むこと ア)

○ 自分の考えをまとめるために、話し手の意図をとらえながら聞くことができる。  
(話す・聞くことイ)

**6 単元の評価規準**

	関心・意欲・態度	読む能力	話す・聞く能力
おおむね達成できる状況	○ 読書会の「交流の柱」について自分の考えをもち、読書会を通して、	○ 読書会の「交流の柱」について、叙述や経験を根拠として、自分の考えをも	○ 自分の考えをまとめるために、話し手の意図をとらえて、

	自分の考えを広げたり 深めたりしようとして いる。	ち、読書会での交流を通し て、自分の考えを広げたり 深めたりしている。	聞いている。
--	---------------------------------	---	--------

## 7 指導に当たって

### (1) 児童について

児童は、これまでに、「星野道夫の世界によろこ！ 本の三つ星レストランを開こう」という単元で、新しいジャンルであるエッセイを「内容」「テーマ」「表現の工夫」で評価し、一人一人が書評を書いて紹介する言語活動を取り入れた学習を行った。その結果、本の分類についての知識や必要な情報を得るために効果的に読む力が付いてきている。

また、「宮沢賢治フェアを開こう！」という単元では、同一作者の本を読み、自分なりに感じた作者の思いと特徴的な表現について、ポップに表し、図書館に掲示することにより、全校に本の紹介をする言語活動を行った。その結果、自分の考えを広げたり深めたりするために、宮沢賢治作品の特徴を簡潔にまとめたり、自分なりに考えた作者の思いをとらえて読む力が付いてきている。

これらの学習を通して、目的や意図を明確にして本を選んだり、必要な箇所を抜き出して自分の表現に生かしたりする力が身に付いてきている。しかし、相手の意図を聞き取り、そのことを基に自分の考えを深める力は十分ではない。

このことから、この単元では、自分の考えをもち、読書会を通して自分の考えを深める力を付けていきたいと考える。さらには、意欲的に読書を続ける態度を育てていきたいと考える。

### (2) 単元について

第5学年と第6学年の「読むこと」の目標は、「目的に応じ、内容や要旨を理解しながら読むことができるようにするとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。」である。これを受けて、本単元では「読むこと」の指導事項ア「自分の考えをひろげたり深めたりするために、必要な図書資料を選んで読むこと」を主目標とする。

「自分の考えを広げたり深めたりする。」とは、中学校第1学年「読むこと」の指導事項オ「文章に表れているものの見方や考え方を理解し、自分のものの見方や考え方を広げること」につながるものである。

中核教材「海の命」は、海とかかわる中で主人公の成長を通し、生き方や自然とのかかわり方・命に対する考え方が感じられる作品である。また、父親を殺したクエをなぜ殺さなかったのだろうといった共通に感じる疑問や感動などに関して、自分の考えをもち、それを交流する中で自分の考えが広がったり深まったりすることを目指す。補助教材においては、「海の命」での学習の仕方を基にしながら読書会に向けて主体的に学習していけるようにする。その際、同一作品を読んだ児童でグループを編成し、同じ作品から感じた感動等に関する考えを交流する中で、自分の考えが広がったり深まったりする良さを感じられるようにしたい。

さらには、命をテーマとした本の読書活動や二つの読書会を通して、命に対する考え方も変容が見られると考える。

### (3) 指導について

本単元では、命をテーマとした本を読み、感動等について交流をする読書会を言語活動として位置づけている。この単元で付けたい3つの力は次の通りである。

### ①「見通す段階」

〈追究力〉 読書会について確認し、「交流の柱」について交流し、単元の見通しをもつことができるようにする。

見通す段階では、単元に入る前に、学習発表会（平和の尊さと命の大切さを学年テーマとした）の後に書いた作文を基に、命について話し合い、自分が現段階でもっている命のイメージをはっきりさせておく。また、「ハンナのかばん 読書講演会」など、他教科・他領域の学習でも、命についての自分の考えをそれぞれまとめていく。

「宮沢賢治作品展示館をつくろう」で、色にこだわって同一作者の作品を読んだことを思い出し、今度は、命をテーマとした作品を読み、読書会を開き、自分の考えを広げたり深めたりするという見通しをはっきりさせる。前半は中核教材「海の命」で読書会の交流の柱の立て方とその内容や進め方を学び、後半は、自分が選んだ本で「読書会」を行うという単元の流れをつかませ、自分たちの学習計画を立てさせる。

### ②「深める段階」

〈追究力〉 「交流の柱」をつくり、その柱について、自分の考えをもつために読み進めることができるようにする。

〈感想力〉 「交流の柱」について、自分の考えをもち、交流することができるようにする。

〈説明力〉 読書会で交流する自分の考えを、根拠となる叙述や今までの生活経験を基に、分かりやすく説明することができるようにする。

深める段階では、中核教材「海の命」の範読を聞かせ、感動したところや疑問に思ったところなどを自由に書かせる。感想を分類していくことで「疑問」「感動」等に目を向けさせ、交流することの楽しみがそこを追求し考えることにあるのだということに気付かせていく。気付いたことを基にして「交流の柱」づくりを行い、読書会を体験する。

### ③「広げる段階」

〈感想力〉 「交流の柱」についての自分の考えを叙述や経験をもとに考え、グループ内での交流を通して、さらに考え深めることができるようにする。

〈説明力〉 「交流の柱」についての自分の考えを、根拠となる叙述や今までの自分の経験をもとに、分かりやすく説明することができるようにする。

広げる段階では、中核教材で学んできたことを基に読書会の計画を立てさせる。並行読書してきた命をテーマにした作品の中から1冊選ばせ、読書会のための「交流の柱」づくりを行う。同作品を読んだ3～4人のグループに分かれて読書会を行い、友達との交流を通して、自分の考えを深めていけるようにする。

### ④「まとめる段階」

〈感想力〉 読書会での交流を通して、自分の考えがどう変容したかをふりかえることで、自分の命についての考えを考え直す。

まとめる段階では、単元を振り返り、読書会を通しての読書の楽しみ方や命についての自分の考えの変容を書きまとめさせ、テーマを決めているいろいろな作品を読み、友達と交流することの楽しさについて感想を発表し合わせる。今後もいろいろなテーマの本で読書会をしていけることを確認し、次の読書への意欲付けを図る。

段階	時間	学習活動・学習内容	指導上の留意点	具体的評価規準 (評価方法)
見通す	1	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">読書会の計画を立てよう。</div> 1 読書会のイメージを想起する。 ○ 読書会の進め方, 内容を確認すること。 2 学習計画を立てる。 ○ 9時間の学習内容をとらえて, 学習の見通しをもつこと。	○ 同じ本を読んでも感じ方や考えが違うことを想起させ, 交流の中で, 新たな考えが生まれる活動のイメージをふくらませ, 意欲を高める	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">関</div> 「読書会」に興味をもち, 意欲と見通しをもっている。 (発言・表情)
深める	2	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">「海の命」を読み, 読書会の「交流の柱」を見つけよう。</div> 1 「海の命」を読み感想を書く。 ○ 疑問に思うところ感動したところ印象に残ったところを見つけること。 2 「交流の柱」をいくつか決める。 ○ 感想を出し合い共通の感動等をとらえること。	○ 疑問に思ったところ感動したところ印象に残ったところを短冊に書かせ, 黒板に貼らせる。 ○ 感想を類型化または焦点化することで「交流の柱」を絞らせる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">読</div> —読書会の「交流の柱」をもつことができる。 (発言・ワークシート)
	3 ・ 4	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">「海の命」を読み, 「交流の柱」について考えをまとめよう。</div> 1 「海の命」を読み, 自分の考えを書く。 ○ 自分の考えの根拠となった叙述を見つけながら読むこと。 ○ 「交流の柱」について, 叙述をもとに自分の考えを書くこと。	○ 自分の「交流の柱」を複数選択し, 考えをまとめていかせることで, 読書会への意欲を喚起させる。 ○ 叙述の他にもこれまでの経験もあわせて考えを膨らませられるように助言する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">読</div> —読書会で「交流の柱」について, 自分の考えをまとめることができる。 (ワークシート)

<p>まとめる</p>	<p>5</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>「海の命」の読書会をし考えを広げたり深めたりしよう。</p> </div> <p>1 3～4人のグループで読書会をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「交流の柱」について自分の考えやその根拠を明らかにして話すこと。</li> <li>○ 自分の考えとの共通点・相違点を見つけながら聞くこと。</li> </ul> <p>2 自分の考えを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新たな考えや深まった考えを書くこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 同じ柱を選んだ児童で3～4人のグループを作る。</li> <li>○ 「進め方シート」をもとにして、司会者が柱に沿って進めていくことができるようにする。</li> <li>○ 話し合いで活用できるように、「交流シート」を用意する。</li> <li>○ 考えまとめる際、聞き取った共通点や相違点を自分の考えに生かすように助言する。</li> </ul>	<p><b>読</b>—「交流の柱」に対する友達の考えと自分の考えを比べて聞き、そのことを自分の考えに生かしている。</p> <p><b>聞く</b>—友達の発言の意図をとらえながら聞いている。 (発言・ワークシート)</p>
<p>広げる</p>	<p>6・7 (1組 本時)</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>グループ毎に、選んだ本での読書会の「交流の柱」を見つけ、自分の考えをまとめよう。</p> </div> <p>1 選んだ本を読み感想を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 疑問に思うところ感動したところ印象に残ったところを見つけること。</li> </ul> <p>2 「交流の柱」をいくつか決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 感想を出し合い共通の感動等をとらえること。</li> </ul> <p>3 自分の考えを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の考えの根拠となった叙述を見つけながら読むこと。</li> <li>○ 「交流の柱」について叙述をもとに自分の考えを書くこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 同じ本を選んだ児童で3～4人のグループを作る。</li> <li>○ 選んだ本を読み、疑問等を出し合い読書会で交流したい柱を絞らせる。</li> <li>○ 個々の作業状態を把握しながら、作業の停滞している児童には「海の命」の学習を想起させ、ワークシートを見て確かめるよう助言をする。</li> <li>○ 付箋を貼ったところを手がかりに考えをまとめるように助言する。</li> <li>○ 叙述の他にもこれまでの経験もあわせて考えを膨らませられるように助言する。</li> </ul>	<p><b>読</b>—読書会の「交流の柱」を見つけることができる。 (発言・ワークシート)</p> <p><b>読</b>—読書会の「交流の柱」について、自分の考えをまとめることができる。 (ワークシート)</p>

<p>8 (2組 本時)</p>	<p>選んだ本で読書会をし、自分の考えを広げたり深めたりしよう。</p> <p>1 3～4人のグループで読書会をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「交流の柱」について自分の考えやその根拠を明らかにして話すこと。</li> <li>○ 自分の考えとの共通点・相違点を見つけながら聞くこと。</li> </ul> <p>2 自分の考えを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 聞き取った共通点、相違点を自分の考えに生かして書くこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 同じ柱を選んだ児童で3～4人のグループを作る。</li> <li>○ 「進め方シート」をもとにして、司会者が柱に沿って進めていくことができるようにする。</li> <li>○ 考えをより明らかにするため「交流シート」を活用させる。</li> <li>○ 考えをまとめる際、聞き取った共通点や相違点を自分の考えに生かすように助言する。</li> <li>○ 交流を通して、自分の考えが新たになったり、深まったりしたことを振り返らせ、友達と交流するよさに気付かせる。</li> </ul>	<p><b>読</b>—①読書会の柱に対する友達の考えと自分の考えを比べて聞き、自分の考えを深めたり広げたりしている。 (発言・ワークシート)</p>
<p>9</p>	<p>単元をふりかえろう。</p> <p>1 読書会の感想を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元を振り返り、交流することのよさについて書くこと。</li> <li>○ 二つの読書会を通しての自分の考えを書きまとめること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の考えが深まったり広がったりしたことから、友達と語り合う楽しさを振り返らせ、次の読書につなげさせたい。</li> <li>○ 単元に入る前の命についての考え方が二つの読書会を通してどの様に変化したのかを振り返ってまとめるように助言する。</li> </ul>	<p><b>関</b>—「読書会」の楽しさに気づき、次の読書への意欲をもっている。 (ワークシート)</p>

9 本時の学習 (6/9) 1組 指導者 佐藤 崇 宣

(1) 目標 読書会の交流の柱を決め、叙述を根拠として自分の考えをもつことができる。

(2) 展開

段階	学習活動・学習内容	形態	指導上の留意点	評価 (評価方法)
導入	1 本時の学習の流れと課題の確認をする。	全	○国語リーダーが進行し、本時の課題を確認することができるようにする。	
	読書会の「交流の柱」を決め、自分の考えをもとう。			
展開	2 選んだ本を読み感想を書く。 ○ 感動したところ、疑問に思うところ印象に残ったところを見つけること。	個	○ グループは同作品を読んだ3～4人とし、進行はグループリーダーが行う。 ○ 選んだ本を読み、感動したところ、疑問に思うところ、印象に残ったところに付箋を貼るようにする。 ○ 疑問・感想等を出し合い、「交流の柱」を絞らせる。その際、叙述から簡単にはわかるような疑問等については柱にならないことを助言する。 ○ 自分の感想と友達の感想の共通点に気を付けて聞くように助言する。 ○ 個々の作業状態を把握しながら、作業の停滞している児童には「海の命」の学習を想起させ、ワークシートを見て確かめるよう助言をする。	○ 「交流の柱」を決めることができる。 (発言・ワークシート)  ○ 「交流の柱」について、叙述を根拠をとして、自分の考えをまとめることができる。 (ワークシート・発言)
	3 交流したい柱をいくつか決める。 ○ 感動等を出し合い共通点をとらえること。			
38	《交流の柱》 ○ 疑問に思ったこと ○ 感動したこと ○ おすすめどころ			
終末	2 自分の考えを書く。 ○自分の考えの根拠となった叙述を見つけながら読むこと。 ○叙述を根拠をとして、自分の考えを書くこと。	個	○「海の命」の活動を想起させることで、自分の考えの根拠を、叙述や、「自分だったらどうするか」等の経験から膨らませればよいことを助言する。	
	5 活動を振り返る。 ○自分の学びを振り返り、次時の見通しをもつ。			

10 本時の学習(8/9) 2組 指導者 千葉由美子

(1) 目標 自分の考えを友達と比べながら交流し、読書会を通して自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

(2) 展開

段階	学習活動・学習内容	形態	指導上の留意点	評価 (評価方法)
導入	1 本時の学習の流れとめあてを確認する。	全	○ 国語リーダーが進行して、今日の学習の流れを確認することができるようにする。	
3	読書会で、自分の考えを広げ深めよう！			
展開	2 柱についての考えを交流する。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     《交流の柱》                      ○ 疑問に思ったこと                      ○ 感動したこと                      ○ おすすめどころ                 </div> ○ 交流の柱について自分の考えやその根拠を明らかにして話すこと。 ○ 自分の考えとの共通点・相違点を見つけながら聞くこと。 3 交流後の自分の考えを書く。 ○ 聞き取った共通点, 相違点を自分の考えに生かして書くこと。 4 交流後の自分の考えを発表する。 ○ 交流後の変容を明確にして話すこと。	全  個  全	○ 同一作品を選んだ児童でのグループ編制とし、「進め方シート」を基にして柱に沿ってグループの司会者が進めていくことができるようにする。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     聞き手                      ◆自分の考えとの共通点・相違点を見つけながら聞く。                      ◆ワークシートに簡単にメモを取りながら読書会を進める。                      話し手                      ◆考えや根拠を明らかにして話す。                 </div> ○ 交流が上手く進まない児童の手助けとなるように、「交流シート」を用意する。 ○ 友達の考えとの共通点・相違点から関連して考えたことを整理しながら自分の考えに生かして書くよう助言する。 ○ 書く作業が滞っている児童には「海の命」の学習シートで確かめるように助言する。	○ 「交流の柱」についての自分の考えをもち、自分と相手との相違点, 共通点に気をつけながら読書会をしている。(ワークシート・様子)  ○ 読書会を通して自分の考えを広げたり深めたりしている。(ワークシート)
37				
終末	5 活動を振り返る。 ○ 読書会の感想を書き、自分の学びを実感すること。	個 全	○ 活動の自己評価と感想をワークシートに書き、今日の活動を振り返る。	